

日本農業技術検定

試験日

第1回

7/8 ±

第2回

12/9 ±

応募期間

第1回 4月27日(木)～ 6月2日(金)

第2回 10月2日(月)～11月2日(木)

受験級

第1回

3級

2級

第2回

3級

2級

1級



JAの営農指導力のスキルアップには2級・1級を！
JA一般職員には農業の基礎知識修得のための3級を！

**JAの経済事業改革は
職員のスキルアップから！**



日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業法人や関連企業等への就業をめざす学生や社会人などを対象に、教育研修の効果を高めることを目的として、2007年度から実施している農業専門の全国統一の試験制度です。

農業をめぐる環境が厳しさを増すなかで、本検定は農業に関する実践的知識の修得水準を客観的に測定しますので、JAの営農指導者には2級・1級の受験で営農指導のスキルアップ、一般職員には3級受験により農業一般の基礎知識の修得に役立ちます。JA県連グループで本検定の受験活用に取り組むところもあります。

実施主体

日本農業技術検定協会

(事務局：一般社団法人全国農業会議所)

TEL:03-6910-1126 FAX:03-3265-5140

e-mail:kentei@nca.or.jp

ホームページ

▶ <https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>

日本農業技術検定協会
構成団体

(一社)全国農業協同組合中央会、全国町村会、全国農業高等学校長協会、全国農業大学校協議会、全国農学系学部長会議、全国大学附属農場協議会、(公社)日本農業法人協会、(一社)全国農業改良普及支援協会、(公財)農民教育協会、(公社)国際農業者交流協会、(一社)日本農業機械化協会、(一社)全国農協観光協会、(一社)農山漁村文化協会、(一社)全国農業会議所【事務局】



日本農業技術検定 概要

第1回

2023年7月8日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

応募期間

第1回 4月27日(木)~ 6月2日(金)

第2回 10月2日(月)~11月2日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

[2022年度優秀表彰団体] ※「農業高等学校の部」除く

[3級] (JAの部) 最優秀団体: JAあいら、優秀団体: JA富士伊豆、JAみなみ信州、JA福岡市

[2級] (農業大学校等の部) 最優秀団体: アグリイノベーション大学校関東校、優秀団体: 群馬県立農林大学校、専門学校 中央農業大学校、埼玉県農業大学校、テクノ・ホルティ園芸専門学校、新潟県農業大学校、アグリイノベーション大学校関西校、広島県立農業技術大学校
(大学の部) 最優秀団体: 佐賀大学農学部、優秀団体: 拓殖大学北海道短期大学、龍谷大学農学部、摂南大学農学部、鳥取大学農学部
(JAの部) 最優秀団体: JA香川県、優秀団体: JA富士伊豆

※JA新はこだて、JA東京中央、JAマインズ、JA東京あおば、JAかながわ西湘、JA梨北、JAぎふ、JA富士伊豆、JA遠州夢咲、JA石川中央会、JA福井県中央会、JA長野中央会、JA上伊那、JA木曽、JAあづみ、JA信州諏訪、JA佐久浅間、JA信州うえだ、JAみなみ信州、JA松本ハイランド、JAこうか、JA大阪泉州、JA大阪南、JAいづみの、JA丹波ひかみ、JA兵庫六甲、JA和歌山中央会、JA香川県、JA福岡中央会、JA粕屋、JA福岡市、JA糸島、JAふくおか八女、JA柳川、JA福岡京築、JAくま、JA大分県、JAべっぴん日出、JAあいら、JAおきなわ、では営農指導力の向上や一般職員のキャリアアップを目的に団体受験を実施しています。

県連グループとして、営農指導員上級資格の要件の一つとして、一般職員は全員3級資格を取得する取り組みを進めるところもあります。

※拓殖大学北海道短期大学、酪農学園大学、秋田県立大学、高崎健康福祉大学、玉川大学、龍谷大学、東京農業大学(神奈川)、日本大学、静岡県立農林環境専門職大学、名城大学、新潟食料農業大学、信州大学、京都先端科学大学、摂南大学、鳥取大学、県立広島大学、佐賀大学、東海大学(熊本)、大分短期大学、南九州大学、宮崎大学、琉球大学、では大学生の団体受験を進めています。多くの大学では学生が元々農業経験もないため大学での農学習得の補強手段として活用されているほか、日本大学生物資源科学部では農場実習の中で本検定受験に取り組んでいます。

※本検定の上位資格は、一定の農業に関する実務的知識を習得していることの証明になります。

第2回

2023年12月9日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

1級 13:00~14:30 (90分)

受験料(税込)

	一般受験	団体受験	団体受験 (学生割引)
3級	3,140円	2,620円	1,570円
2級	4,190円	3,350円	2,090円
1級	5,240円	4,190円	2,620円

※複数級受験割引=学科の「3級と2級」又は「2級と1級」を同一検定日に受験の場合、受験料を1,000円割引。

試験方法

[3級] 学科試験のみ

[2級] 学科試験+実技試験

[1級] 学科試験+実技試験

※1級、2級も学科試験のみの受験が可能です。学科に合格した場合は、「学科試験合格証明書」を発行します。なお、1級・2級実技試験は免除措置があります。詳しくは本検定ホームページをご覧ください。

3級 試験科目	農作業の意味がわかる入門レベル	■ 農業基礎として共通30問 ■ 「栽培系」「畜産系」「食品系」「環境系」から1科目選択で20問。ただし、「環境系」は、環境共通10問と3分野(造園、農業土木、林業)の各10問から1分野選択 ■ 四者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: 農業高校生	
2級 試験科目	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	■ 農業一般として共通10問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	
1級 試験科目	農業の高度な知識・技術を修得している実践レベル	■ 農業一般として共通20問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計60問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	

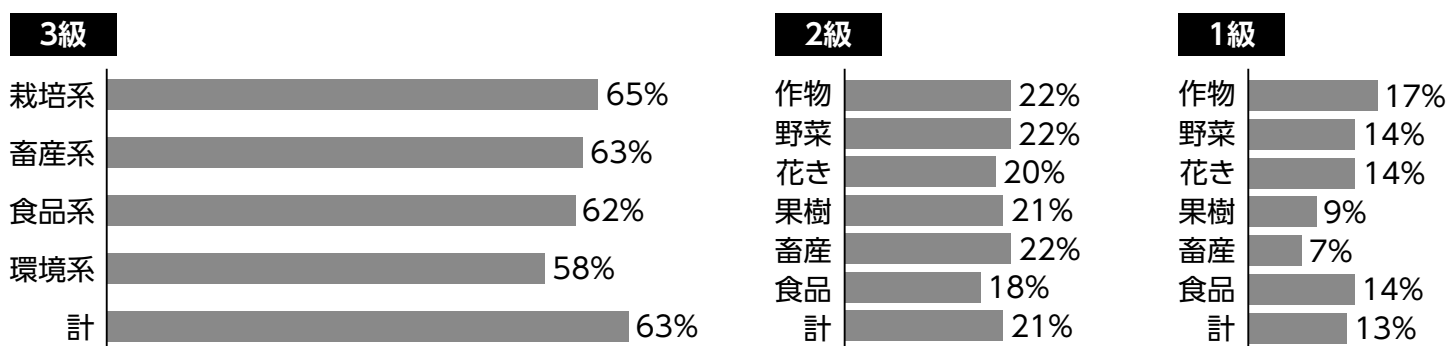
日本農業技術検定の受験実績

①全体受験実績(2017～2022年度)

(受験者数(人)
合格率(%))

	3級	2級	1級	合計
2017年度	20,681人(56%)	5,743人(18%)	277人(6%)	26,701人(47%)
2018年度	20,521人(62%)	5,365人(20%)	247人(9%)	26,133人(53%)
2019年度	19,992人(59%)	5,311人(23%)	266人(7%)	25,569人(51%)
2020年度	18,790人(66%)	3,015人(21%)	206人(7%)	22,011人(59%)
2021年度	20,939人(66%)	5,908人(23%)	265人(5%)	27,112人(56%)
2022年度	17,932人(63%)	5,024人(21%)	243人(13%)	23,199人(54%)

②科目別合格率(2022年度)



③合格基準

[3級] 100点満点の原則60%以上

[2級] 100点満点の原則70%以上

[1級] 120点満点の原則70%以上

実技試験

(2級、1級試験では学科のみの受験も可能です。学科試験合格者には学科試験合格証明書が交付されます。実技試験までご希望の方は以下をご参照ください)

①2級実技試験免除

2級実技試験(農業機械についてのほ場での実地検定)の希望者は11月に受験の機会があります。農業系の学校(農業高校、農業大学校、大学等)での農場実習、農業経験(JAの営農指導経験を含む)1年以上、2級実技試験免除規定に指定する農業用機械・食品加工の2機種(工程)以上を履修していれば免除が可能となります。

学校での2級団体受験の場合は、学校(団体)としての2級実技免除手続きをお薦めします(5年間有効)。具体的な手続きは本検定ホームページをご覧ください。

※農業機械の実習証明に必要な講習会については、本検定ホームページをご参照ください。

②1級実技試験免除

1級実技試験(12月の1級学科試験と同日時に開催)は1級学科試験合格者の希望により受験が可能です。農業系の学校での、農場実習等4単位取得者又は2年以上営農実務経験を有する方は免除が可能となります。詳細は本検定ホームページをご覧ください。

申込方法

お申し込みは
ホームページから

▶ <https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>

①一般受験

個人がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「一般受験」画面から申し込む。

雇用就農資金支援対象の雇用就農者は、都道府県農業会議が受験者を取りまとめてインターネットで申し込む。

※受験料の振込先口座番号は受験者(団体)別になっており、毎回変わります。所定の振込口座へ、応募期間内に受験料をお振込みください。

②団体受験

学校・JA・農業法人など要件を満たす実施団体(受験者5名以上、試験会場を提供、試験官1名以上担当など)がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「団体受験」画面から申し込む。

テキスト・参考書 (購入方法などの詳細は本検定ホームページをご覧ください)

テキスト・参考書を活用して、①過去問題集を解いて出題傾向をつかむ。②過去問題集の解説やテキスト、高等学校農業用教科書で問題を確認する。③自分の苦手な領域を重点に②の確認を行う。④類似した出題もあるので過去問題集を何度も学習する—などの勉強方法も効果的です。

3級

- (1) 2023年版過去問題集3級 (発行) 全国農業会議所
*2020年度、2021年度、2022年度試験問題5回分を収録
- (2) 日本農業技術検定3級テキスト (発行) 全国農業高等学校長協会
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行) 教科書出版会社

2級

- (1) 2023年版過去問題集2級 (発行) 全国農業会議所
*2022年度試験問題2回分を収録
- (2) 日本農業技術検定2級テキスト (発行) 全国農業高等学校長協会
*2級テキストの全面改訂版は、刊行予定が決まり次第、ホームページでご案内します。
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行) 教科書出版会社

1級

- (1) 1級学科試験問題…日本農業技術検定協会(全国農業会議所)
*2020、2021、2022年度試験問題、年度毎に実費販売
- (2) 日本農業技術検定1級…参考図書例 農業関係出版社

*1級試験問題は過去問題の出版物はありません。ホームページをご覧くださいの上、日本農業技術検定協会事務局宛(kentei@nca.or.jp)にメールにてご連絡ください。実費でコピーして送付いたします。

*テキスト・参考書については、それぞれの発行元にお問い合わせください。 全国農業高等学校長協会 TEL.03-5357-1666

2023年版
日本農業技術検定
過去問題集
(2級・3級)
好評販売中!

JAにおける団体受験の取り組み紹介

JAグループの日本農業技術検定への取り組みは、平成22年から九州の一部のJAからはじまり、徐々に自主的に本検定に取り組むJAも増え、令和3年度には全国52JA、約1,800人の受験がありました。JAの合併が進み、これまでの受験の成果もあり受験者は縮小しましたが、4年度には39JA、約1,100人が団体受験に取り組みました。

JA関係者は、JA営農指導員による2級、1級の専門級受験がほとんどでしたが、最近の特徴としては、①県中央会が主導するJA営農指導員を対象としたキャリアアップのための上位級受験に加えて、②職員教育のための農業理解の一環として一般職にも3級受験を推奨するJAや県連も増えてきています。また、③人事制度の評価に本検定資格を加えて、職員のキャリアアップに受験を奨励して、業務の意欲向上につなげるJAもあり、JAでの本検定の受験活用場面は増えてきています。

JA長野県グループでは、「営農相談員資格」という独自制度を令和元年度に改めて、本検定の3級取得を条件とすることに切り替え、県下11JA、300人を超える受験者がありました。毎年の取り組みで有資格者が増える中で、4年度は9JA、140人が受験しました。

このうち、JA上伊那では「職員全員がスタンダードレベルの農業知識を持って組合員とコミュニケーションをとる」ため、①営農相談員資格取得と、②毎年全正職員を対象とした農家体験実習を2本柱として、職員の意識改革を進めています。

また、JA香川県でも、若手職員を中心に、県内農家での農業体験のほか、本検定の受験を推奨し、実施初年度(元年度)には約300人もの受験がありました。テキストや過去問題集の活用なども支援して、4年度には80人が受験し、2級受験では合格率60%の高成績で2級(JA部門)の最優秀団体として表彰されました。

私達も応援しています! — 日本農業技術検定への協賛企業・団体



日本農業技術検定に関するお問い合わせ

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)
TEL:03-6910-1126 FAX:03-3265-5140 e-mail:kentei@nca.or.jp